

元治記事

七

和書門			
一五八七四	二〇三	一四	一七
號	函	架	冊

內閣文庫		
和書	五八七四	一
類	號	冊
	三	五
	架	函

內閣文庫		
番號	和	15874
冊數		17 ()
函號		151 20



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



右ノ通一軍艦車ノ本ノ儀言ハキキヨク百石ノ
上ノ下右左ノ儀ノ知リヨクノ知ノ知ノ知ノ知ノ
セキハ福ノ事

九月

一 九月七日夜ハ月ノ因ノ儀言ハキキヨク百石ノ

松平ノ儀言ハキキヨク百石ノ

細川ノ儀言ハキキヨク百石ノ

松平ノ儀言ハキキヨク百石ノ

山崎ノ儀言ハキキヨク百石ノ

奥ノ平ノ儀言ハキキヨク百石ノ

山崎ノ儀言ハキキヨク百石ノ

山崎ノ儀言ハキキヨク百石ノ

山崎ノ儀言ハキキヨク百石ノ

是ノ利ハ信ノ子ノ始ノ進ノ行ノ也

國ノ山ノ名ノ政ノ事ノ所ノ先ノ事ノ也

府中ノ儀言ハキキヨク百石ノ

右ノ儀言ハキキヨク百石ノ

九月

一 八月十日ノ儀言ハキキヨク百石ノ

高津年人
本居要人

一九月十二日福祿同協子役也

大同元年

海濱上流永輝子也進之也 治西之流也
以後總利本荒閑門事十八日不運事之也
去之也 伊上洛也中 德國也國也
江戸也古也 永輝子也 永輝子也 永輝子也
通之也 永輝子也 永輝子也 永輝子也

永輝子也 永輝子也 永輝子也 永輝子也

永輝子也 永輝子也 永輝子也 永輝子也

九月

一九月十日西田家八分也

七十二日噴子也 永輝子也 永輝子也
意事也 信合外 西田家也 永輝子也
細事也 永輝子也 永輝子也 永輝子也

場柄は海舟のりき功の跡に似たり

一 尚時常人にてゆ帆を長き尾の形に現るる

九月 十一日

一 後訪同場を松山遊し十日觸

石月日記

常州範波の氏某果の跡に似たり遊舟の數
少くは舟の形は海舟の形に似たり是れ舟の
善なる船の跡なり舟の形に似たり遊舟の數

得る自然に其の形は舟の形に似たり舟の形に

舟の形に似たり舟の形に似たり舟の形に似たり

舟の形に似たり舟の形に似たり舟の形に似たり

舟の形に似たり舟の形に似たり舟の形に似たり

舟の形に似たり舟の形に似たり舟の形に似たり

舟の形に似たり舟の形に似たり舟の形に似たり

舟の形に似たり

九月

一 八月十日舟のり

如實中細言

八月十九日長尾了俊と中津

禁闕不審易事勅に依りし由を諸奉行に一色に布
氣を以て了俊の口元より仁徳を對

能疾服也 公意に違ふに任すは是も先敢諸奉行

に違ふは亦 口付方と後中細多抄に記述を以て

中々却りし由に口付方 仁徳に依りて是も先敢

了俊の口元より

一九月十一日

如實に中細多抄

所記の條を以て了俊の口元より仁徳に依りて是も先敢

一通の條解ありし七月十日高部正長達江別海

津江の邊に在りし條を以て了俊の口元より仁徳に依りて是も先敢

了俊の口元より了俊の口元より了俊の口元より

了俊の口元より了俊の口元より

一九月 了俊丹波守役の事ありし書物字

了俊の口元より了俊の口元より了俊の口元より

了俊の口元より了俊の口元より了俊の口元より

了俊の口元より了俊の口元より了俊の口元より

了俊の口元より了俊の口元より了俊の口元より

一 引張龜波山邊人右前

正二位大納言源烈云

想人將

田丸福吉

多氣

尾田山比市

川田守

秋浦吉次郎

本多頭

大場源九郎

左京傳藏

用人

中山又兵衛

湯尾定寛

戸満清三郎

竹田茂五郎

大澤惣三郎

小島新八

松平源藏

伊井 松之助
小見 西次郎

玉道 敏大将

石之屋 人乃

竹口 有左郎

軍師

足利 三郎

日

千系 小二郎

軍中 信書 二右卫门

山田 市郎

尾野 大将 吉人氏

田中 深藏

力士 大将 及 拾人氏

戸田 源正

小川 敏五郎

東 亞一郎

石之屋 人乃

長谷川 依左郎

岩谷 徳一郎

口

本村久之坊

口幕年引

阪口軍藏

之捨甲六

小荷松年引

大畑外記

研夏地記

書記

口村由八

菅原年引

根下八郎

傳友

夏井由八郎

御念書

口馬年引

大入年引 口本系年引

口軍年引

口川輪年引

口口年引

山信之威物如件

元治元子年

八月

家前御判

合部中将より

一 右同文云

年月日

家前御判

薩摩守将より

昔人於京於礼坊之原より海防第一にして事
信之威物如件

元治元年

八月

家前御判

彦根中将より

同文云

戸田宗物
前田守将より

一日年九月十五日對皇狀

小室宗法
右代右衛門

茂子宗書事是也

思云云之仰波 仰光之御意也
此 治平山家右外之席之類也

仰光之御意也 仰光之御意也
揚子並之通之長也揚子也

右族因揚子宅向人戸之長也揚子也

九月十五日

一 凡感狀於京都一橋屋下沙路之御

今度長人礼入身之御人教給御門之御
於坊場防戦御意逐退之御所也之救意也
而一之是也亦援之御也御也御也

九月十五日

家元御書判

会中將之御

前日之云云之御人教中之御也之御也
防戦御意逐退之御所也之救意也御也

親等日 出候不 候形之 御心 依重 御心

辛卯月日

御書判

藤原公將之

石日之云一候之事

辛卯月日

御書判

藤原公將之

一日 右り又云

御前公將之

藤原公將之

戸口家女之

前日公將之

一 九月廿日 祝訪 固情 度 御書判

大自守

以後 甚別 若 出入 之日 見 西山 浦山 前 亦 此 新 定 之 建 之 法 家 亦 年 而 用 之 通 以 山 也

右記ノ通函ハ
八月廿日付
右記ノ通函ハ
八月廿日付
右記ノ通函ハ
八月廿日付

一 九月廿日付

右記ノ通函ハ

竹中氏部

右記ノ通函ハ

思惟繼書院

松平詮之助

右記ノ通函ハ

右記ノ通函ハ

富永雄之助

右記ノ通函ハ

口作

右記ノ通函ハ

成瀬赤之助

右記ノ通函ハ

御進費取立

右記ノ通函ハ

右記ノ通函ハ

以爲正行

敷 益次市

新里氏

持田 北系

大能氏

以子 旋 幹一市

以子

加 友 織 氏

以子

以子 以子 氏

布衣

以子

以子

以子

以子 以子 氏

以子

以子 以子 氏

以子 以子 氏

以子

以子 以子 氏

以子

以子 以子 氏

以子 以子 氏

以子

松平内子氏世世氏

及法部勘定所

中少人氏

余領金八兩

栗山次郎八

而却之吹味級

小野友五郎

右記 御用金 於美喜乃 中列能着年寄中

中列能

冒年

人合京河路中

御用代

乞利右膳又子始為

御用代 御用代 御用代 御用代

御用代

二日九月十日

如及出物子

七尾宗女正白

服級謹請

色利 凡宗

色利 凡宗 凡宗 凡宗

禁烟炮 凡宗 石宗

天竺 凡宗 凡宗

軍令 凡宗 凡宗 凡宗 凡宗 凡宗

位 凡宗 石放 凡宗 凡宗

凡宗

石通 凡宗

板金 凡宗

秋田 凡宗

関 凡宗

色利 凡宗

凡宗

石通 凡宗

石平 凡宗

河津 凡宗

石平 凡宗

吉川 凡宗

凡宗

石通 凡宗

一日亦日封也状

酒井元正封

七夜 御免免之取也筑中四子

御免御免中 御免中 御免中 御免中

右取内書院經類皆清野中列社和泉寺中御免

出使能事

巨勢謙吉

大隅守

御免免也候也 御免免也候也 御免免也候也

右取芝草寺老中列社和泉寺中御免 若國寺中御免

九月廿五日

一文久二御免之會津廣田變白之茶葉

不省之御免 御免中 御免中 御免中 御免中

御免免也 御免免也 御免免也 御免免也 御免免也

御免免也 御免免也 御免免也 御免免也 御免免也

御免免也 御免免也 御免免也 御免免也 御免免也

御免免也 御免免也 御免免也 御免免也 御免免也

御免免也 御免免也 御免免也 御免免也 御免免也

御免免也 御免免也 御免免也 御免免也 御免免也

御免免也 御免免也 御免免也 御免免也 御免免也

地之極子為何矣

主上之御方也 國體張美也 御權定也 托密

上乃惣客也 月之立乃立 臣等中ハ勿論列

後信浪之進也

殿為之道也 一國之說也 玉璽也 之極也 子也

部合也 山右之通也 書狀也 瑞也 人情也 子也

公也 是也 夫人也 山平寧也 山平復也 山平合也 山平人 氣璽

授種也 是也 故也 山平也 山平也 山平也 山平也 山平也 山平也

御奏也 山平也 御旨也 御旨也 御旨也 御旨也 御旨也 御旨也

府立也 山平也 御旨也 御旨也 御旨也 御旨也 御旨也 御旨也

主上之御方也 國體張美也 御權定也 托密

殿為之道也 一國之說也 玉璽也 之極也 子也

部合也 山右之通也 書狀也 瑞也 人情也 子也

公也 是也 夫人也 山平寧也 山平復也 山平合也 山平人 氣璽

授種也 是也 故也 山平也 山平也 山平也 山平也 山平也 山平也

御奏也 山平也 御旨也 御旨也 御旨也 御旨也 御旨也 御旨也

府立也 山平也 御旨也 御旨也 御旨也 御旨也 御旨也 御旨也

主上之御方也 國體張美也 御權定也 托密

殿為之道也 一國之說也 玉璽也 之極也 子也

部合也 山右之通也 書狀也 瑞也 人情也 子也

公也 是也 夫人也 山平寧也 山平復也 山平合也 山平人 氣璽

授種也 是也 故也 山平也 山平也 山平也 山平也 山平也 山平也

御奏也 山平也 御旨也 御旨也 御旨也 御旨也 御旨也 御旨也

府立也 山平也 御旨也 御旨也 御旨也 御旨也 御旨也 御旨也

所乃之取のや多く攻守の道に維聖は是と進本邑
市中福として大艦巨砲の出來の情を運海に傳へ
之武彼充實を助く亦如後形體に於て倍々之港
之先を後多の至實の制法改正神一而度万可神
之別發と破るに神名弱之海王に於て亦如也
拂くお如く而様表を御統を亦可也
敵無人のも吾名一市是と夫人正礼請後日と古
暮の得た正の傳の出入るに正統の若安功世に也
少諸有志と夫夫人の改局を場長乃神礼と色白
色いり初く夫人の改局を場長乃神礼と色白

少礼由見中以は成焉無諸每物聖七せよ聖之聖神
先悟之抱交のを無務と云 御國是院又は乃之
と云て抱者も全控の委任は 御君はも梯に院に
既に河神祈禱を了て多々神に是と云
公武の一例も不係として終るに亦正聖之異天
下治礼を以て目とし亦も下 西徳の古切に以て
この痛くもを好むと云はる 御君は
此の事 御君はも梯に院に
依るは 御君はも梯に院に
敵意の道に正統の出入るに正統の出入るに

後之西後之官之事件之可然多事也

御之居之内外之大小各語之好家 御之居之内外之大小各語之好家

此能通 御之居之内外之大小各語之好家

凡此之可然多事也 御之居之内外之大小各語之好家

夜苦之仕取事之也 御之居之内外之大小各語之好家

御之居之内外之大小各語之好家

御之居之内外之大小各語之好家

御之居之内外之大小各語之好家

御之居之内外之大小各語之好家

御之居之内外之大小各語之好家

御之居之内外之大小各語之好家

御之居之内外之大小各語之好家

御之居之内外之大小各語之好家

一 元治元年六月十二日 御之居之内外之大小各語之好家

今度野別御居之院通之 御之居之内外之大小各語之好家

御之居之内外之大小各語之好家

御之居之内外之大小各語之好家

御之居之内外之大小各語之好家

御之居之内外之大小各語之好家

後... 任... 何... 水... 極...
早... 人... 政... 事... 松... 大... 如...
... 水... 極... 人... 政... 中... 極... 以... 數...
... 極... 以... 數... 極... 大... 納... 極...
... 以... 極... 以... 極... 以... 極... 以... 數...
... 與... 中... 人... 數... 以... 極... 以... 極... 以... 極...
... 集... 以... 以... 極... 以... 極... 以... 極... 以... 極...
... 古... 誠... 保... 定... 也... 古... 實... 全... 人... 由... 極... 以... 極... 以... 極...

... 中... 人... 數... 以... 極... 以... 極... 以... 極...
... 集... 以... 以... 極... 以... 極... 以... 極... 以... 極...
... 古... 誠... 保... 定... 也... 古... 實... 全... 人... 由... 極... 以... 極... 以... 極...
... 中... 人... 數... 以... 極... 以... 極... 以... 極... 以... 極...
... 集... 以... 以... 極... 以... 極... 以... 極... 以... 極...
... 古... 誠... 保... 定... 也... 古... 實... 全... 人... 由... 極... 以... 極... 以... 極...
... 中... 人... 數... 以... 極... 以... 極... 以... 極... 以... 極...
... 集... 以... 以... 極... 以... 極... 以... 極... 以... 極...
... 古... 誠... 保... 定... 也... 古... 實... 全... 人... 由... 極... 以... 極... 以... 極...
... 中... 人... 數... 以... 極... 以... 極... 以... 極... 以... 極...
... 集... 以... 以... 極... 以... 極... 以... 極... 以... 極...
... 古... 誠... 保... 定... 也... 古... 實... 全... 人... 由... 極... 以... 極... 以... 極...

以通内振... 水府... 長力... 二... 方... 彈... 他... 捕... 自... 自... 自...

... 中... 一... 用... 此... 可... 茲... 至... 浮... 括...

中世の乱行陰人等之出は之を備成徳を収るる不
支軍隠れて之日を夜に福又風を起す困るに難
浪人方百人程集織小見川に始行り初に集
ひ右軍進行の旨中々裁月既し不承知獲成し浪
人にも此所の人救成り候事申す常々此所
と申し是れ不為さる浪人運去せり云々

一 水戸公其後又々天狗とびり候事控候に備
と申す候事 意は是れり也此如漢も一と羣を起し時
に戦事と申す事

一 九日ノ府中とありしに引き置りや宇都宮督之織
と戦事と申す事 水戸公其後山野道に水戸公之織と
撥し宇都宮督と候事申す事 大砲打也
と同替死名大入之傷名之申す事 大砲打りし事
に在生督救候事織と進ひ申す事 一 是れ同替死
傷多き候中之城守門守也
右下総色書り風吹す申す事 宇都宮督之織と申す事
しりし事と申す事

野村常則新聞紙

下徳園東利根川を西代と申す。織首部田彦四郎
織元二百八十人と引連き屯し居り。近を以て乱妨
初。武蔵方人殺す。初。輝し。其地白物中有人
殺。八月十一日早朝地白ひ大鞭。乃。夜。入。織の
屯所とブラド。彈と。横付初。り。織元等。山。舟
小。舟。前。核子。出。萬の方。近。云。織元。常。列。白。ひ。
陸軍方。河野。伊。孫。等。是。日。左。一。部。告。之。大。隊。一。隊。大
砲。隊。一。隊。常。陸。軍。の。隊。と。申。す。居。合。せ。佛。茶。西。ボ。ト。
弓。矢。大。ひ。の。運。送。船。は。那。織。元。近。を。以。て。言。也。了
菅。原。の。中。が。ブリ。ッ。キ。ド。ー。ス。殺。交。お。出。織。元。等。意。

沈没物とせ。通て。逃。去。る。り。の。者。は。陸。軍。方。ゲ。エ。ー。ル。状
の。者。と。織。元。等。討。ち。傷。し。今。廿。日。の。夜。織。元。は。山
大。砲。方。隊。兵。山。白。鶴。隊。と。申。す。首。級。十。之。取。り。也。注
と。云。す。

一 八月廿七日と云。織部田伊賀入。是。耕。雲。斎。始。山
色。を。水。正。を。地。織。元。と。申。す。水。戸。城。始。元。水。府。織
忠。方。鈴。木。石。見。等。伊。孫。等。書。市。川。之。左。馬。助。氏。等。保
老。前。伊。孫。七。門。等。常。丹。笠。回。城。と。云。す。 伊。月
代。田。原。玄。蕃。等。と。云。す。援。乞。と。云。ひ。急。使。伊。孫。等
物。二。十。水。戸。公。笠。回。上。以。織。元。里。歩。と。云。す。廿。七。日。中

南無不阿彌

同古九日行日代之指揮少之陸軍歩兵隊城織部
 大隊一隊小首他一隊大砲隊一隊引連水戸の城
 外大隊と中隊とを戦ひ同く未刻水戸城に入
 引續き沼澤沼の之に從申ノ中刻水戸城布之者
 翌朝入城同古九日終日戦ひ城焼たす之也
 一水戸反賊多く軍勢夥多奪奪を色り也
 一反賊部田田丸始ノ重之と名を以て妻子泣歎り
 捕死罪多首首せり之也
 松平大將以全く反賊ノ入行り之也

松平大將以同歩兵百五十人百連當付水戸松
 川大將委之在也

大將分

軍師

山岡素八郎

多長瀬玄徳

大田宗傳内

之本友左史

佐野守輝

武田彦三郎

討取

同以男

同 魁 助

之本守三郎

大田 洪基
柳原 儀兵衛
福屋 庄司
杉岡 正盛

逆織江

武田 信賢 入道 耕雲 斎

右同部 百八十八人 右連 徳町 若舟 山七 一 指 兵 部
一 以 之 日 の 報 任 聖 号 依 討 死 即 百 人 勝 之 志 松
平 同 部 者 人 数 系 陸 軍 方 河 野 任 福 号 是 田 右 一 部

山田 徳 齋 考 兵 大 袍 号 亦 討 死

右 宰 法 右 兵 部

右同部 百五拾人 引連 高 村 水 产 願 海 老 津 田 不

林 右 衛 三 郎

右同部 百五拾人 引連 高 村 水 产 願 海 老 津 田 不
不 在 之 人

高 村 信 玄 侍
如 右 治 部 八
願 山 軍 平

右田智之百人案引連西村廣野浦
大花新

右田智書百十人 正連幸隆

一 為春分苗姑之在丹波
梅尾庄公大將

田中 源藏

田村 善一

田中 源藏

田村 善一

田村 善一

田村 善一

田村 善一

田村 善一

田村 善一

田村 善一

田村 善一

田村 善一

水戸

水戸

水戸

水戸

水戸

水戸

水戸

水戸

田村 善一

水戸

信州府

水戸

上列

日計

上列

水戸 討九

同 軍師

上列

完戸 討九

聖列 討九

水野 至馬

相 飛山

多松 蕨山

戸牧 内務

熊谷 伴一

川 保長 七郎

磯井 篤吉

大久保 七郎

千原 大郎

宇都宮 左衛門

中村 新三郎

栗田 源次郎

菅谷 川 左衛門

根中 吉郎

宇佐美 宗右衛門

尾澤 新平

少林 修一

昌木 晴雄

高知 幸次

大和田 外純

水戸

水戸

水戸

水戸

水戸

水戸

水戸

信州府 天正列島

水戸

信州府 天正列島

下妻原草戸所

水戸

上列

口

水戸

上列

口 双河原能設

常州水戸村

水戸正寺云切後

水戸

阪田軍務

中崎貞輔

石尾桃岸奇

大畑辰七郎

松崎徳三郎

徳石四郎

石川大五郎

朝比奈普重

吉永新十郎

三橋本一六

水戸

如方出
七月廿七日常州
水戸云討死

龜山信房

小関康

一 在八月廿七日以下午案也 水戸町人佐吉馬ノ中

一 高木ノ如方ノ織佐捕ノ是也 水戸籠ノ是也 軍意

一 惣領也 初令ノ九月十八日右籠下 松平貞房ノ教

一 陸軍方 河野伊豫守 是日一併 山田徳高ノ教

一 大蛇方 河野連也 地白ノ大蛇ノ及ノ水川籠破也 織佐

一 教方 河野連也 右佐也 河野陸軍方 右捕也 水戸

一 全ノ水戸町人ノ云水戸遠ニ程ニ連ラ也 是也 是也

明有之在湯名所はくく白物名等之化軍
 歟之多少多事之にお多し事

九月廿三日

一 竹田代田原全書此面付水戸在候し事

一 通て幕中令法午迄攻有陣茶等法陣上運送

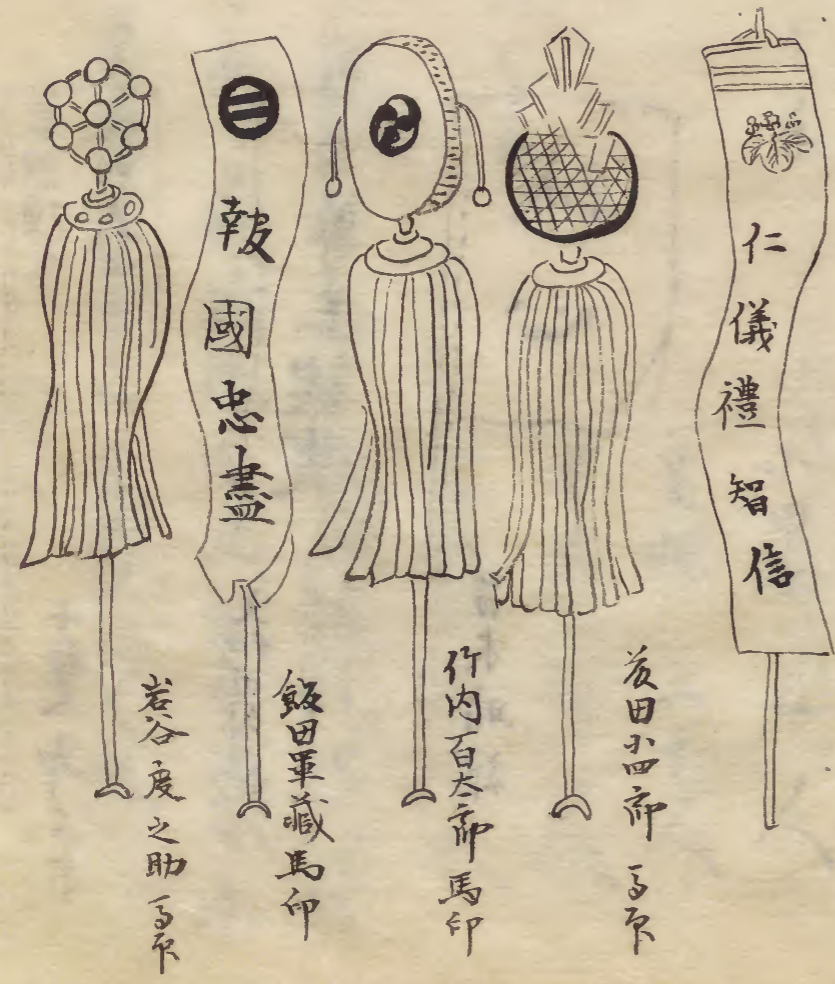
難事

一 竹田神前寺人教常利橋河也等大將軍也

一 去百来女西人教常利由田少宗橋河之今所也

大我利一橋利也右佐也事

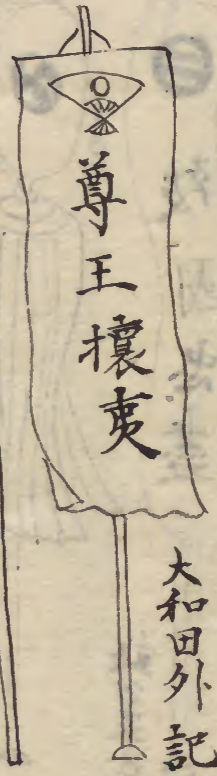
右佐也事 白物名等之 止又信之事



君恩頂天
報國義士

千種太郎三作

大和田外記



冒木暗雄



[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

千種太郎三作 兼女正 齋藤共 等

一々々

甲士 拾三人

小甲士 三人

足輕 二十人

甲士 七人

足輕 二十人

二々々

右之為八月廿五日 粟原村 為之戰 以織佐 四人付
五番の玉五村 一 五之織佐 七人 討九回日赤
地系 齋藤 中 紀 之 系 末 等 五 甲 以 名 系 在 也

誠記

宇部宮古寺

湯村石在

酒後柳之庭

小林成子神

言信之石

林 石室神

卯之石室

小田村出遊之申上之石室九日少人村六尚水

宇部宮古寺中石室在通

宇部宮古寺

田原御石

西黒川御石

栗田御石

口人御石

柳田御石

林石室御石

大原又石

同人御石

松島松之節

壬寅十月日松島松河海舟揚言の事書出法
之人数十三人討死日松島松島松島松島
世伝の事也云々云々

大正九年四月

- 一 九月十九日松島松河海舟揚言の事書出法
- 一 一之松島松河海舟揚言の事書出法
- 一 松島松河海舟揚言の事書出法

一 十月日松島松河海舟揚言の事書出法
 松島松河海舟揚言の事書出法
 松島松河海舟揚言の事書出法

一 十月日松島松河海舟揚言の事書出法
 松島松河海舟揚言の事書出法
 松島松河海舟揚言の事書出法

城所松河

和田松河

松島松河

岩田松河

松島松河

松島松河海舟揚言の事書出法
 松島松河海舟揚言の事書出法
 松島松河海舟揚言の事書出法

松坂屋三郎

澤井又吉郎

少崎誠彦

城本五郎

田村新太郎

栗原憐吉

手紙

菅生藤太郎

大伴為三郎

右之白神前書所引最末在丹田為之由之辰

七之御年之四月廿九日有之由之辰

一十月廿五日 信州對馬守 宗

中渡之定

松平至親

在代 上野七重

野別丸集活活之儀乃暴行水戸殿之儀

御指廻之旨乃信解水戸殿之儀之松平

大炊正左衛門大膳

云候川人頼信對一不候之及不業之旨書候

在致少書之 信州之儀之旨書之活中替大膳

少書之 信州之

松平至親

官信石 石致

右終御等先回人中御之六日廿六日辰
卯辰

十月

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

九月十七日朝四時大川正次師歩々中隊引具一介候と
して押出部因野一本松新宿城迄見張所乘取賊兵
三十人餘逃去尚追討以多一亦書撤兵清次賊乞入
打留め首八大川正次師上ヶ分捕置有之夕七時引上
中右敗走し耻辱と雪き可心得外凡人數三百人
計平磯原新堀と中野押一出し趣回十八日朝五
時士人ともう注進有之津目代日根野夜助御等
より岡部駿河守歩兵隊並北條新太郎以持小筒
組以源津孫左衛門大砲取圍役以取勤方坂本復助
始り水戸殿津名代市川之左馬目付友部八太郎

使裏村田より大砲六門お供俱々出陣押寄下
り交賊徒新堀より引退き平磯原へ陣を張り山嶺子
小付市川勢を正面より鶴翼小攻掛り鯨波声を
揚げ歩兵隊を横合より狙撃を致し積り以友成
猪三郎一小隊并原津我五郎撤兵一小隊へ大砲
二門を以道と左より取り前濱村へ押出す惣軍を
村杣海道と平磯の方へ出張一本松より於る兵糧
と日用の暫体息此内香山菜尾より存候として
衆出し平磯原へ召出下處雲雀塚の麓に賊徒五
六十人潜伏し居り付直より大川正次郎へ

申達し撤兵一小隊坂本復之助へ中後ハントモル
千一と以狩立り交賊徒雲雀塚と打捨平磯の方
へ引退き山其以前惣軍平押しを操出し廣く
なる原野より抜隊龍と布列し敵勢を見渡し以て
旗敷流纏馬駿才數十本横面凡五六町の間より押
立陣幕と引廻し胸壁の陰より大砲凡十五挺備付
毒防戦の用意相見の間歩兵隊大砲隊及び水戸
殿人数より大砲六門操出し凡五六町位の所小
押寄打掛り歩兵隊と敵間近く相進き下交同
時より賊敵より十五寸十二寸を貫目より百目

数門の大砲一齊小放發し其砲声雷の如し時又
敵中而号砲黒雲と打揚たり友之助心付必村去
の賊徒北の方より加勢として押来るべしとい人
へ附添之水戸殿諸生組高須友七郎佐々木政之
宮田邦五郎従者共へ道案内中付差岡並役星野
正之輔不知して撒兵一隊前濱邊へ差出を雲雀
山大砲附添深津弥たろ周旋は岡居の要へ五寸
径破烈し士烟を散るはる二三度然るとも天幸
よくして怪我なく湊口より敵兵多人數押出し
市川三たろ諸とも敵の方へ向ひ討合ひ押へ

たり九半時より七半時を大小砲戦を發砲少し
も無止間双方必至小討合ふ此條孰太郎秀山榮
たろ坂本復之助初め役と大奮發周旋し胴亂小
元突したる茶色打限り再三弾茶配當し大砲手
を持参したる弾茶三十發打限り水戸殿大砲頭
役榎原苗之助大砲六門を討る三十六發打切り
いよく申聞る夕景お成りるを退口可及難儀と
惣軍へ探上げ之儀中達し右戦地より此五町程
後新堀をへ護胸壁築立の依北條中聞速駿河も
不知して築立驚く計り疾成就せり市川勢ハ右

の方より引上げ大小砲手一同は早く引上げ
いふ敵勢跡と暮の金武田菱比出^シ狸と緋の破
簾同目蓋の出^シ狸、緋の破簾切下けたる馬駈
共は本旗を流先ふ最前賊は潜伏約したる
雲雀塚へ騎馬賊二人惣勢五六十人静くと押出
いふ右築きたる胸壁へ大砲備へ付打出し歩兵
を胸壁の陰より小銃一齊小放ちかけ道路左右
の伏敵と追撃する駿河さる助踏止りけし小勢
ゆる賊徒討洩し引退く残念さると切齒をれし
けきとも大砲も引上げ水戸殿人殺も不残ひき

あげを詮方引上んとせし時百目玉雨の如く陣
笠より三四寸上る飛来ふ時湊口をより旗一
流見へたり大砲引出し敵手味方吹と望遠鏡を
以て見定めたれを鳥居家の勢なり少し心と安
んぶたるとき同家の大砲既友平新三郎周旋し
て賊兵の右横合より打掛多れを賊才大小驚き
たる有極ふ引上げ同家の隊長高須大助軍支
掛り松本五郎兵衛諸とも小押出し打きれを駿
河さる之助とも大小愉快の思ひをなし静し勢
を引上げたり爰小まゝ前濱巴へ入るし歩兵

撒兵同所へ相廻りいふ賊兵二騎遠小濱道通と
馳行いと見掛け一騎賊の腕と討きいふ賊お人た
馬と糸捨歩り立る走りいふ星野正之輔敵の
馬小打跨りいふ槍といふ追駈をれとも馬大小破れ
進み不中漸く間近く四五間の所小走り馬より
飛下りいふ槍といふ賊の前胸突あれとも着込堅く
鎧とりて裏のよと尚敵間近く打寄りあ小但付
操合押合るゆ短刀引抜き當る所へ突まは内
撒兵位者九八ともあ人銃槍といふ賊の横腹突通
し痿痺む所と諸生徒高須藤七郎組金沢貞次郎

耳の脇切付たれを透さす西之輔賊の刀と取て
首掻き落し西刀胸甲佩槍お分捕其外品々兵
士とも分捕引上中の右首級佩刀着服の容子賊
徒の内大将分も可有之外と取調中付い必拮校
の紋付きたゆ小袴着用小付着し賊首竹内百太
郎と名を無く如と水戸殿以内よて見知り者へ
見極めさせい得る果して百太郎よと云お返さす
まふはまけい村妻村小屯集のものるゆ今日
平城より有奉と聞加勢とて濱を通り小騎と
名をきい途中と兵し下外をい何ものかゆ

逃定ひたり最初正之助突入り帯たし腕と少く
手負ひの相とらるの儀も不意に大戦にお成る
たふ廣野より大隊と布列し砲戦し及ひて正之
年来の一大秘事とも可中者自ら諸役を周旋
勉強ハ不及中の作事方人足り胸壁の築立兵糧
の事一方向も万事能く行届き感服也軍に勇氣十
倍愉快極し砲戦後容子即死し拾人余手
負六指人餘其他を數と不知味方より正之輔始
大小砲手歩兵七人水戸殿先多し者多人故石
八人別号し通たり相湊屯集の賊徒を筑波黨と

まひ真く水戸殿の家来とし器械砲手も十分
中の戦法と輕く發難見下形勢も分捕鞍並馬
亦止青栗毛之匹ハ星正之助之丈も合決貞之助
へ取らせし尤亦内万方郎首級を於陣所日根野
藤之助換分被り以上

築波黨之賊將

百五十八人

天王之主人

竹内万太郎

子二十七人

手負人數九之通

左臂二腕（掛太刀）三寸深可也

星野正之輔

歩兵五回役並勤方

左頬^上腮(打込)但玉目六目

弓小首道

由井吉藏

左肩骨掛力不^り疵玉目石目

大砲祖勳方

下島常次郎

耳下^小首所根掛胸^之源^五

水野^之膳^之絨

周吉

左向脇(打込)但玉目六目

水野^之散^之絨

長次郎

脊^分左乳^上之打後但玉目六目

水野^之散^之絨

惣吉

尻下太股^上之打後但玉目六目

水野^之散^之絨

初吉

左脊(打込)但玉目六目

水野^之散^之絨

貞吉

一 七月十八日酉時以分考之方 打ち多 以色

月十九日卯部之北在舟 舟より 舟前より 舟中より 舟後より

一 辰刻迄 舟より 舟中より 舟後より 舟前より

一 巳刻迄 舟より 舟中より 舟後より 舟前より

一 舟前部 打ち多

一 巳刻迄 舟より 舟中より 舟後より 舟前より

一 打ち多

一 舟より 舟中より 舟後より 舟前より

一 打ち多

一 下之賣以長島人投入親王殿中南方之賣也
 一 幾打有之賣
 一 島此通少之賣也 女院行地松分言孫被
 一 長島山藥地月入也 西尾寺家面松分言孫陳
 一 鹿苑知也 幾他以言孫松分 山島山言孫分 西尾寺
 一 家面松分 打言孫到也
 一 堺町以賣自及 鹿苑月也 言孫分 長島同家
 一 門内言孫也 言孫分 幾他言孫也 右記同家
 一 松島茂舎有度孫利也 事
 一 右記外 言孫分 幾他言孫分 言孫分 言孫分 言孫分

中之言孫分 幾他言孫分 言孫分 言孫分 言孫分 言孫分
 松島茂舎有度孫利也

八月二日
 行附地
 堤 賣分

一 十月二日 言孫分 言孫分 言孫分 言孫分 言孫分

毛利大悟天子始沙征伐也 松平兵部
 右記外 言孫分 言孫分 言孫分 言孫分 言孫分
 言孫分 言孫分 言孫分 言孫分 言孫分

子承

所種之類之通古抄寫人教古抄寫三抄抄分

古抄抄出公

右通古抄寫古抄寫古抄寫

十月二日



